

京大リウマチ通信

第13号 京都大学医学部附属病院 リウマチセンター



2014.11.19. 文責：橋本 求



リウマチと歯周病って関係あるの!?

みなさんは、歯周病というと口のなかだけの病気だと思いませんか？しかし、実は、全身のさまざまな（たとえば心筋梗塞や脳卒中など）に関係していることが知られています。その中でも特に最近注目をあびているのが、歯周病と関節リウマチの関係です。

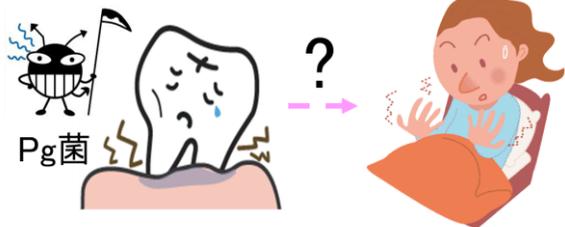


リウマチと歯周病が併発しやすい理由とは？

関節リウマチの患者さんには歯周病が多いということは、昔から知られていました。しかし、歯周病がリウマチに影響を与えるのか、それとも、リウマチが歯周病に影響を与えるのかは、よく分かりませんでした。たとえば、リウマチ患者さんは、関節の痛みのために歯をうまく磨けない可能性がありますし、リウマチの治療に使う薬の多くは免疫を弱らせる作用がありますので、それによっても歯周病が悪化する可能性があるからです。

歯周病

関節リウマチ



カギを握るのはあの歯周病菌？

しかし最近、ある歯周病菌が、リウマチ患者さん特有の免疫反応をひきおこす原因ではないか？として注目されるようになりました。リウマチ患者さんの血中には、抗 CCP 抗体（抗シトルリン化蛋白抗体）が検出され、これが高値の患者さんは低値の患者さんに比べて関節破壊がすすみやすいことが知られています。この抗体が標的とするのは「シトルリン化蛋白」という、通常の生体内ではあまりつくられることのない蛋白質ですが、最近、歯周病菌のポルフィロモナス菌（以下 Pg 菌）が、シトルリン化酵素を分泌し、歯周病組織でシトルリン化蛋白を作り出すことが報告されました。現在知られている細菌の中で、シトルリン化酵素を産生することが知られているのは Pg 菌だけです。そこで、歯周病による Pg 菌の感染が、抗 CCP 抗体の産生やリウマチ悪化の原因の一つと考えられるようになったのです。



京大リウマチセンターの研究でも

京大リウマチセンターの研究でも、初診時に歯周病がある関節痛患者さんはその後リウマチを発症する可能性が高くなること（日経メディカルオンライン学会ダイジェスト：第57回日本リウマチ学会）や、口の中に Pg 菌を含む代表的な歯周病菌を3種以上もつ患者さんは、そうでない患者さんに比べて1年後のリウマチのコントロールが悪い（第58回日本リウマチ学会）、などのデータがでています。こうした結果からも、歯周病はリウマチ悪化の要因になっている可能性が考えられます。

いろいろな治療を行っても、なかなかリウマチがよくなるらない、という患者さんは、一度、歯の健康をチェックしてみてもはいかがでしょうか。



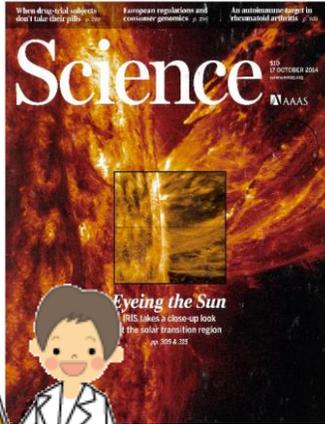


京大再生研との共同研究が、 Science に掲載されました

京大病院再生医科学研究所の伊藤能永助教らと京大リウマチセンターの共同研究が、米国科学雑誌「Science」2014年10月17日版に掲載され、「関節リウマチの原因物質を特定」などのタイトルで、同日の新聞各紙でも紹介されました。この研究では、リウマチのモデルマウスを使って、病気の発症のときに免疫細胞が攻撃を開始する物質を同定し、その反応が、京大リウマチセンター通院中のリウマチ患者さんのうち374人中64人(17%)にも認められることを明らかにしました。

この研究でリウマチの原因物質のひとつが明らかとなったわけですが、実はこの研究の結果、リウマチではそのような物質が一つではなく複数あることも分かりました。まだまだ解明しなければならぬ謎が残っているといえそうです。

この研究成果は、日ごろ京大リウマチセンターの研究にご協力いただき、血液などをご提供いただいている皆様のご協力あってのものです。この場を借りて深く御礼申し上げます。貴重な検体を生かして、これからも有意義な研究を発信していきたいと思しますので、今後ともご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

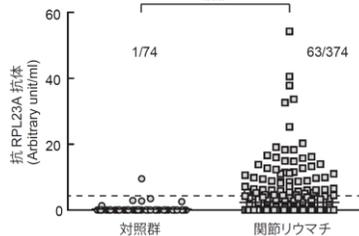


AUTOIMMUNITY

Detection of T cell responses to a ubiquitous cellular protein in autoimmune disease

Yoshinaga Ito,¹ Motomu Hashimoto,^{1,2,3,4*} Keiji Hirota,^{2,5} Naganari Ohkura,^{2,5} Hiromasa Morikawa,² Hiroyoshi Nishikawa,² Atsushi Tanaka,^{2,5} Moritoshi Furu,^{3,6} Hiromu Ito,^{3,6} Takao Fujii,^{3,4} Takashi Nomura,¹ Sayuri Yamazaki,⁷ Akimichi Morita,⁷ Dario A. Vignali,^{8,9} John W. Kappler,^{10,11} Shuichi Matsuda,² Tsuneyo Mimori,⁴ Noriko Sakaguchi,² Shimon Sakaguchi^{1,2,12†}

T cells that mediate autoimmune diseases such as rheumatoid arthritis (RA) are difficult to characterize because they are likely to be deleted or inactivated in the thymus if the self antigens they recognize are ubiquitously expressed. One way to obtain and analyze these autoimmune T cells is to alter T cell receptor (TCR) signaling in developing T cells to change their sensitivity to thymic negative selection, thereby allowing their thymic production. From mice thus engineered to generate T cells mediating autoimmune arthritis, we isolated arthritogenic TCRs and characterized the self antigens they recognized. One of them was the ubiquitously expressed 60S ribosomal protein L23a (RPL23A), with which T cells and autoantibodies from RA patients reacted. This strategy may improve our understanding of the underlying drivers of autoimmunity.



第10回リウマチ教室報告

第10回リウマチ教室では、当センターの伊藤宣が、「関節リウマチにおける関節破壊とX線検査」について講義を行いました。関節リウマチの関節破壊は発症後2年以内に進むことが多いので早期の治療が必要なことや、リウマチでは症状があまりなくても関節破壊が進行していることがあるので定期的なX線検査が必要なこと、あるいは、生物学的製剤を2年ぐらいつづけたところ破壊された関節が一部修復された患者さんなど、例を挙げて説明しました。



伊藤先生講義風景

なお、次回の第11回リウマチ教室(2015年1月22日)では、歯科の先生と歯科衛生士さんをお招きして、リウマチ患者さんの口腔ケアに関する講習会を開きます。

興味のある方はぜひご参加ください。



受付時間

午前8時30分～午前11時00分

診察室	月	火	水	木	金
108号室	橋本	石川	藤井	橋本	藤井
109号室		布留(午後)	伊藤	伊藤	布留

リウマチに関するご質問、「リウマチ通信」や「リウマチ教室」で特集してほしいテーマがありましたら、外来主治医または外来秘書にお気軽にお申し出下さい。

お問い合わせは…



京都大学医学部附属病院 リウマチセンター
代表電話 075(751)3111 予約電話 075(751)4891
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 54

